

平成 25 年 12 月 20 日

釜石市市議会議長 海老原 正人 様

会派名 海盛会  
代表者 赤崎光男  
報告者 合田良雄



### 会派視察報告書

当会派所属議員による視察報告を下記の通り実施しましたので、報告いたします。

#### 1. 視察項目：(1)須坂市議会改革への取り組みについて（須坂市、人口 5 万 2 千人）

##### (2)「産業連携施設」の成果について

日時：平成 25 年 11 月 12 日(火) 須坂市

参加者：赤崎光男、菅原規夫、川崎勇一、合田良雄

相手方：須坂市議会事務局、宮川氏

須坂氏産業連携開発課長、加藤氏

#### 【研修内容】

##### (1)議会改革の取り組みについて

須坂市議会が独自で取り組んだ議会改革について伺った。改革内容は次の通りである。

###### ◊議員関係・懇談会の開催

- ・定数削減を議会提案 (24 人→20 人、H19、2 月より)
- ・報酬の改善に関する検討 (議会・議会活動に専念できるような)

###### ◊本会議関係

- ・一般質問の際の対面方式の導入 (議場に質問席を設置し、対面式での一問一答方式を導入)
- ・パネルの使用 (一般質問において許可。併せて、議員及び執行部への資料配布)
- ・本会議傍聴者への議案の概要を配布
- ・本会議傍聴者用補聴装置 (ヘッドホン) の設置
- ・託児、手話通訳の対応

###### ◊広報関係

- ・行政視察報告会の開催 (各常任委員会が実施した行政視察の報告会を駅前シルキーホールにて開催)



- ・議案の賛否の公表（市民の理解と信頼を深め、より開かれた議会運営のため、ホームページ及び市議会広報において議案の賛否を公表している）

## (2) 「産学連携施設」の成果について

須坂市（産業振興部工業課所管）は、平成 14 年 12 月 19 日に「信州大学・須坂市研究連携センター」を開設した。この施設は、須坂市内の企業支援のため、信州大学の支援のもと、当工業の振興と新産業の創出のための産学官の拠点施設とするために設置したものである。このセンターに信州大学工学部教授で須坂市在住の遠藤守信教授を迎え、施設のサブタイトルを「遠藤守信研究室サテライトラボ」とした。教授はカーボン科学研究においてノーベル賞候補にもなっている。

産学連携の取り組みは次の通りである。

- ・産学官連携による産業の活性化を図るため、産業コーディネーター2名、産業アドバイザー3名を配置
- ・国・県等の提案公募型事業など外部資金導入による新技術新産業創出支援
- ・信州大学、長野県工科短期大学、長野工業高等専門学校との包括連携協定事業
- ・技術開発に関する補助金ほか知的財産保護、販路開拓・拡大、専門家派遣に関する支援
- ・須坂創成（仮称）高等学校の創設に向けた総合的支援
- ・スマートコミュニティ構想推進
- ・研究会活動支援（イノベート SUZUKA、ものづくり人材育成ネットワーク、フルーツ・スイーツ研究会、グリーン農業研究会、第二期信州須坂産業活性化戦略会議）
- ・産業フェア in 善光寺への参画
- ・工学部「BMU 研究会」「善光寺平センサーバレー研究会」参加
- ・蔵の街並みキャンパス元気スクール開催

## 【所感】

### (1) 議会改革の取り組みについて

一問一答方式で一般質問を平成 13 年から実施していて①発言時間は再質問を含めて 1 人 30 分、答弁はこれに含まず②再質問の制限回数（現行 3 回）は問わないということだが、平成 23 年 9 月議会は 18 人の登壇、それ以外でも 14~15 人が登壇していて活性化につながっている方式と思った。一問一答方式は論点及び争点を明確にして行うものであり、議会を傍聴する市民にも争点と応答がわかりやすいのだと思う。今後私たちも参考にすべきだと思う。

広報としての議案の賛否の公表を市民の理解と信頼を深め、より開かれた議会運営のた

め、ホームページや市議会広報にのせているとのことだが、これは私達も見習いたいものだ。ぜひ釜石市議会でも実現出来るよう努力をしていきたい。

## (2)産学連携施設について

当施設により異業種連携、人材育成ネットワークそして地元産の農業研究、バイオマスユーティリティ研究等産業活性化に向けた拡がりがとても素晴らしい。須坂駅前シルキービル2階という交通の利点地にものづくりの情報発信地をかまえ、これから前途洋々たる須坂市の工業振興と新産業創出の息吹を感じた。見習いたい。

## 2.視察項目：ものづくりサポーター制度の取り組みについて（岡谷市、人口5万2千人）

日 時：平成25年11月13日㈬ 岡谷市

参加者：赤崎光男、菅原規夫、川崎勇一、合田良雄

相手方：岡谷市工業振興課、一之瀬氏

### 【研修内容】

市の将来を担う子供達がものづくりの楽しさ、尊さを学び、優秀な人材となるように様々な事業を実施している。

その事業をサポートするモノづくりサポーターを募集しているが、市内製造業の経営者・勤務者ものづくり技術経験者、ものづくり愛好家等計20名の応募者の協力で次のような事業を行っている。

(1)ものづくりフェア（10～2月）子供向けイベントのサポート

(2)岡谷下諏訪ロボバトル（7～8月）ロボット製造時のサポート

(3)ものづくり体験隊（8月）体験教室のサポート

岡谷の工業の歴史は製糸から精密・電子・機械工業への変遷である。オルゴール、二眼レフカメラ、8ミリカメラ、小型モーター、自動巻き腕時計、デジタルプリンタ、水晶腕時計、テレビ、水平多関節ロボット、デラックスオルゴール、PC980互換機、1990液晶プロジェクト、カラージェットプリンタ等「超精密微細加工の集積地」を実現している岡谷市の工業である。

ものづくり基盤技術強化事業として、より付加価値の高い新規成長産学分野への参入や、基礎基盤における高度化を支援するため、市内企業が単独もしくはグループで新技術や新製品開発に取り組む事業への助成を行っている。

- ① 一般枠：限度額 150 万円
  - ② 新エネルギー発電等技術枠：限度額 50 万円
- 再生可能エネルギー・蓄電池・その他エネルギー関連技術
- ③ 開発試作枠：作業員 10 人未満の中小企業を対象に受注によらない試作への補助　限度額 20 万円

その他にも中小企業経営強化支援事業、ものづくり人材育成事業、産業連携・交流推進事業、中小企業経営技術相談所、テクノプラザおかや、中小企業金融対策、雇用促進対策（若年人材確保対策、中高年齢者・母親等の就業促進、求人・求職対策、人材の育成強化、人材定着化対策、労務管理の適正化）、勤労者対策等国内有数の技術力を誇るものづくりの「諏訪ブランド」の確立のために様々な手厚い支援が行われている。

#### 【所感】

岡谷市の工業支援の窓口が工業振興課であり課長がテクノプラザ館の館長も兼ねている。このテクノプラザおかやにて私達も説明を受けたが、このプラザが交流発信機能、工業都市学習センター機能、サポートセンター機能、情報バンクセンター機能をもち岡谷市のものづくりの発信機能の重要な中枢になっている。駅前にこのプラザがあり、視察当日も各研修会が行われていて非常に地の利を得ている。ものづくり人材育成支援事業で芝浦工業大及び岡谷工業高校の協力で、小中学生を対象としたロボット製作とそのコンテストを行い、ものづくりの楽しさを体験させながら、人材育成につながる意義ある事業である。

1. 観察項目：(1)須坂市議会改革への取り組みについて（須坂市、人口5万2千人）

(2)「産業連携施設」の成果について

日時：平成25年11月12日(火) 須坂市

参加者：赤崎光男、菅原規夫、川崎勇一、合田良雄

相手方：須坂市議会事務局、宮川氏

須坂氏産業連携開発課長、加藤氏



2. 観察項目：ものづくりサポーター制度の取り組みについて

日 時：平成 25 年 11 月 13 日(水) 岡谷市

参加者：赤崎光男、菅原規夫、川崎勇一、合田良雄

相手方：岡谷市工業振興課、一之瀬氏

(岡谷市、人口 5 万 2 千人)

